

民生委員児童委員だより

◇編集発行◇
泉区長命ヶ丘
四丁目19番4
民生児童委員
本間照雄

文化・人の輪が醸し出す地域の笑顔

蛍からLEDに変われど心の栄養を求める私たち

想いを綴る

◆二十五年もの間、河北新報の「声の交差点」に投稿してきた足跡を、妻と子ども二人の三人で編集した『声を紡ぐ』（自費出版）。◆お世話になった方への御礼として、二〇〇一（平成十三）年から現在に至る迄の二十四年間に渡る

深まる錦の晩秋から襟を立てる初冬へ

晩秋のお片付け

◆十一月二十三日（日）朝七時から落ち葉の片付けが行われました。町内会役員の皆様始め多くの参加で、大型ゴミ袋百四十七袋にもなりました。

◆多くの皆さんの参加が、私たちの住む環境をきれいに整えてくれています。私たちの環境は、私たちの手で守り維持していく。そんな意識込みを感じました。みなさん、お疲れ様でした。



朝早くから熊手を手にする。

言霊百五十編が掲載されています。◆以下、何編かのタイトルです。『子どもは地域の宝 助け合い育児』（2002/1/22）二頁

『礎となる農業の将来像を思索』（2007/12/26）十九頁
『高齢者見守る優しさ広がる』（2002/06/10）二十八頁
『日本の原風景 妻と共に歌う』（2011/01/27）三十九頁
『仮設で熱唱 被災者も笑顔』（2014/12/10）六十頁
『運動継続 健康寿命を延ばす』（2021/01/11）八十八頁

◆最後には、子どもたちが母の投稿を選んで掲載し、本誌を結んでいます。◆父と共に日々を歩んできた母の投稿文を、父の人柄を映し出すも一つの視点として、添えさせて頂きます。『夫の言霊から生きる力得る』百十頁



家族四人で参加。小学二年生は「大きなちり取りに落ち葉いっぱい」

◆本書『声を紡ぐ』は、長命ヶ丘四丁目のカワチの向かい側にある喫茶店「和」（なごみ）に置いてあります。珈琲を飲みながら、手にとって頂けると幸いです。写真撮影月日 2025/03/06ふれあいサロンの際に手話つきで「ふるさと」を歌った時の半田さんありし日のお姿です。



になったのが楽しかった」と、楽しそうに語ってくれました。

お元氣な幸齡者

◆去る十一月十一日(火)午前十時から。仙台リハビリテーション専門学校を会場に「大人のラジオ体操」が開催されました。

◆この活動は、長命ヶ丘四丁目西に拠点に行く『晩酌の会』が企画実施したものです。この活動は、専門学校の全面的な協力の下、長命ヶ丘四丁目西町内会及び長命ヶ丘地域包括支援センターの後援を得て行われました。

◆参加者は、想定を遙かに超え、五十人にも達しました。資料の印刷が大変で、何度も増刷をして頂きました。学校には大変ご迷惑をおかけしました。

◆参加者は、評判を聞きつけ、四丁目西だけではなく、長命ヶ丘団地全域や川平団地からも参加下さいました。

◆参加された方は、次のような感想を寄せて下さいました。

・奥出なので、なかなか外に出る機会がなかったが、出てみると違和感はなく、和気あいあい楽しんでた(七八歳男性)

・みんなで来ると楽しい。おせっかいかな?と思ったが、誘って良

かった(七歳女性)

・ラジオ体操は知っていたが、しっかり教えてもらい勉強になった(七六歳男性)

(七六歳男性)

・身長が伸びたようだ(笑)(七八歳女性)

・動脈硬化でこれはまずいと思い参加した(七八歳男性)



剪定教室

◆快晴の秋日和の下、長命ヶ丘小学校で『庭木剪定の勘どころを知る』(剪定教室)が行われました。

◆講師は、現役の庭木職人山田さん。参加者は男女三十人でした。始めに、座学が行われ、山田さんオリジナルのテキストが無償で配られました。座学後は、小学校校庭の庭木で、剪定の実践をさせて頂きました。

◆樹形を三角形にするこの座学を忘れ、最も大切な枝を「チョッキン」。大笑いの講評などもあり、賑やかな剪定教室になりました。



掛かりつけ民生委員児童委員



小学生のお見送りをする巨人